入來正躬先生のご指導に感謝して -人工炭酸泉研究会の発足-



山梨大学名誉教授 山梨医科大学/山梨大学 神経内科前教授 塩澤全司 入來正躬先生(山梨大学名誉教授)は平成28年10月23日日)に湯村温泉病院(甲府市)でご逝去されました。

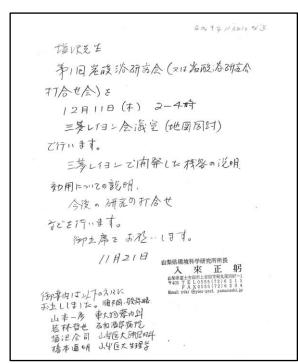
私は入來先生と20年余りにわたり、三菱レイヨン株式会社と共同で立ち上げた人工炭酸泉研究会で炭酸泉の人体への有効性と、多方面への実用化について研究を推進して参りました。

先生は、ドイツ留学の経験から炭酸泉の効能についての造詣が深く、日本でも人工的に高濃度炭酸泉が作られるようになったことから、医療面のみならず、美容、健康促進等、多岐にわたる活用が可能になるところを、誰よりも熱望されていました。私達も、それぞれの専門分野で長年活発に研究発表を続け、大きな成果を挙げて参りました。

記念すべき人工炭酸泉研究会の20周年の祝賀の席に、一番の功労者である入來先生のご臨席が叶わなかったことは、誠に残念で、無念としか言いようがありませんでした。

ここに、入來先生の哀悼の意を表して、私の手許にある研究会の発足時の記録を 参照しつつ、在りし日の先生を偲びたいと思います。

平成9年当時副学長だった入來先生から、「今度新しく始めようと思う仕事は本物になりそうだから、それを成功させるため、是非協力してくれませんか」、という一本の電話があり、それが人工炭酸泉研究会の始まりでした。まもなく、三菱レイヨン株式会社の担当者が来られ、ビニール製造過程で排出される老廃物質の高濃度炭酸ガス(1000ppm以上)が皮膚紅潮反応を示すことを実証してくれました。山梨環境科学研究所に移られた入來先生は、当初炭酸浴研究会(後の人工炭酸泉研究会)の立ち上げる会を発足したい旨を、平成9年11月21日に関係者に通知してきました。





平成9年12月11日には三菱レイヨン株式会社と打ち合わせ会を開き、平成10年4月17日に第一回人工炭酸泉研究会を開催することを決定しました。

*98.3.16 山梨医科大学 報授 塩澤全司様

> 人工炭酸泉研究会設立準備会 発起人 入來 正躬 且轉尿減減科学研究所 由聚集宣士者由市上吉田 字劍夫屋5507-1 TEL 9855-72-6211

人工炭酸泉研究会(仮称)発足の件ご案内 排巻 この富士の山雅の地にも昔の兆。がそこここに感じられます今日この頃、 骨様には益々ご清楽のこととお遊び中しのげます。

さく 30念年前、私がドイツ バード・ナウハイムのマックス・ブランク研究所に留学中、バード・ナウハイム温泉から割出致します炭酸ガスを含有する租泉の人容療法による高血圧症、心臓病治療を知りました。炭酸泉溶の末将血管抵抗効果及が含盛素疾効果に基づく療法です。帰国後この療法を日本で行えないかと従れる政心表しましたが、適当な天然泉、人工疾食泉製造装置が得られず、断念致しました。

ドイツの入資銀法は1000PPNを越える意数度の炭酸水が条件で、これに受談しますと、塩時間で設強部が測証する事、35℃前後の冷泉でも冷癒麻痺効果で寒さを感じにくいと言う現象がみられます。

昨年三隻レイヨン(株)、三隻レイコン・エンジニアリング(株)の担当の方が、同社で開発した高鉄度人工炭酸良製造度面についての意見を何いたいと来が、 でれました。その折りに資達の都証要多、冷酷無再現象を説別し、それらが発現 すれば、天然炭酸泉の効果と同等の効果が貼得できる旨説明致しました。同差は 早遠それらを確認する為の実験を行い、かなり明確な測視を示す資料を持参され ました。(炭酸泉等に伴う増紅は極めて最高的で、ラインを引いたようにはっさ り解ります。但し冷底庫中効果は数人の人物快速が印象としてそのように感じ ると報告しているレベルで、確認は今後の実験に行つ必要があります。」

この側紅現象を確認し、久しく断念しておりました炭酸溶療水確立に可度挑映 してみようと考えるに至った次第です。濃度に誘いても1500PPMレベルでも十分可能と問き、高濃原での実験の成果も確認したいと考えております。 この療法を広く普及させるために、皆様方のお力により研究会を発足させ進める事が適切と考えました。今回三数レイコン(株)、三数レイヨン・エンジーアリング(株)の協力を持て、人工炭散来研究会(仮称)の近韓会会並びに第一戸の研究発表会を下記の通り実験数したくご繋内申し上げます。よろしくご貸回の上ご治療期りたく年にます。当日研究発表をお願い致します情様には別会事務局より業内中し上げますので、併せてご永知下さい。

なお末平にてはなはだ影響に存じ、日つ機越とは存じますが、私が数立発価の 発起人としてご案内させていただきます事をご了※頂ければ幸程に存じます。

記 日時 198年4月17日(金) 研究会 午後8時~5時半 遊親会 午後8時~7時半

開会の15分前までにご参集をお願い申し上げます。 場所 東京都千代田区丸の内2-5-2 二菱ビル 15階 - ※クラブ TFL03-2916-5861

JR東京駅丸の内側改札口より徒歩3分(同封の地図を参照下さい)

進行次第(条)

- · 研究会の発足・名称承認
- · 研究会会長選出
- ・会則承認 他
- 2) 第1回研究発表会
- ・5 類の研究発表を手定いたしております 3) 懇親会 午後6時より開催 7時80分開会

商、今回の発表会の事務局は研究会正式発足時の決定よで暫定的に下記とさせて 頂きます。ご質門、ご連絡等は下記までお願い致します。

三菱レイヨン (株) 事業全両開発量 担当者 松思・田中丸 電話 03-3245-8691

電話 03-3245-8691 FAX 03-3245-8924

以上

(これが第一回人工炭酸泉研究会を開催する入來先生からのご案内状です。若くして ドイツに留学して以来炭酸泉に魅せられた思いがあり、それが実を結んでこの会が結 成されたことが切々と語られております。)

その後、私共は第一回人工炭酸泉研究会に、山梨地区から演題を発表する準備のために、若林哲也先生が勤務する石和温泉病院に、三菱レイヨン株式会社の榊原巨視さん達も集まり、入院中の糖尿病患者さんの足浴中の足底のpHを炭酸泉使用前後に測定を行い、私が代表してその成績を発表しました。こうして人工炭酸泉研究会は順調なスタートを切ることができました。









(これは第一人工炭酸 泉研究会(平成10年 4月17日於東京三菱 クラブ)のときに準備 したスライドです。私 は人工炭酸泉により糖 尿病性壊疽の患者さん の足底温の上昇を狙っ て膝下の足浴を中心に 検討し発表しましたが、 入來先生は全身介護や 褥瘡などの関係から全 身浴にこだわっておら れました。図で全身浴 をしているのは榊原巨 視さん。)

第1回人工炭酸泉研究会 プログラム 平成10年4月17日(金) (会場:三菱クラブ) 設立総会(15:00~15:30) 研究発表会(15:30~17:50) 座長:山梨県環境科学研究所 入來 正躬 1. 人工炭酸泉に浸漬した手掌側の指皮膚血流に及ぼす炭酸濃度と水温の影響 レーザー・ドップラー組織血流計による評価法の検討 旭川医科大学 第一生理学 橋本 眞明 2. 人工炭酸浴における足浴時足趾血流量の測定 藤元病院 下沖 晋,藤元 登四郎 原元病院 「沖 音、線元 宣四郎 国立循環器病む今研究所 辻 隆之 特別養護老人計画中郷國 籍方 カホル、大坪 弘明 3. 人工炭酸泉浴による血圧、血流、体温への影響について 大城戸 道生若林 哲也 健康浴研究会 石和温泉病院 4. 高濃度人工炭酸泉が呼吸循環系に与える影響 健常成人における人工炭酸泉入浴と単純泉入浴の比較 山形県立保健医療短期大学 理学療法学科 富下 智, 内田 勝雄, 古川 順光, 大森 圭,毛利 光宏 昭和大学医学部川心 リテーション医学診療科 森義明 5. 寝たきり高齢者の入浴における人工炭酸浴の応用 藤元病院 鏑木 誠,藤元 登四郎 国立循環器病シター研究所 辻 隆之 特別養誕老人ホーム中郷国 緒方 カホル, 大坪 弘明 6. ガス透過性薄膜による高濃度人工炭酸ガス温水浴の疼痛性疾患に対する効果 北里大学東病院川心川-ション部 前田 真治, 山北 秀香, 佐々木 飄 7. 炭酸ガス浴の効用について 山梨医科大学 神経内科 塩沢 全司, 新田 清明 石和温泉病院 大城戸 道生, 若林 哲也 総合討論・講評 懇親会(18:00~19:30)

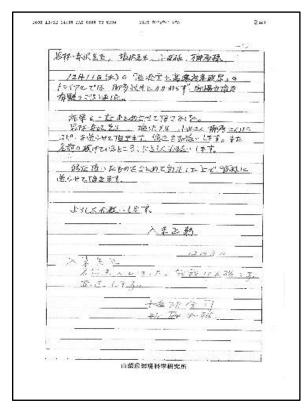


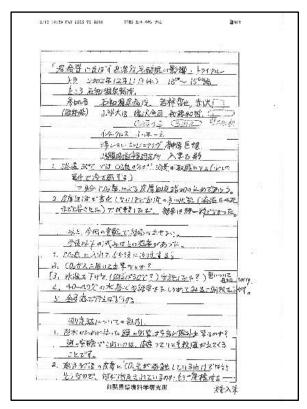
(右上段の写真は情報交換会で挨拶する入來正躬先生、右下段は三菱レイヨン株式会社の事業企画開発室長の古武弥英様(名大在学時代教えを受けた名古屋大学医学部第二生化学教授古武弥人先生の御子息)です。当時から会社の榊原巨視、松尾勲、田中丸直也様らには大変お世話になりました。)



(これがその時の会議風景で、

左から橋本眞明、前田真治、塩澤全司、松尾汎、山本一彦、入來正躬、若林哲也先生 達がいます。) 平成14年12月11日には、人工炭酸泉浴を行う上で、測定温度を35度から42度にまで色々と温度を変えて実験を繰り返して、検討しました。この会の出席者は、入來先生、若林先生のほか、山梨大学から当間忍、望月泰朗、渡辺春江、新藤和雅先生でした。この研究会のまとめは入來先生によってなされました。次のメモは入來先生の自筆です。





現在、人工炭酸泉を用いた製品は、日本中で多方面にわたって活用され、話題となっていることは周知のごとくです。先生の発想の鋭さと先見の明には感服せざるを得ません。次の写真は、日本サッカー協会顧問の釜本邦繁氏が、平成19年10月の第12回人工炭酸泉研究会の懇親会に出席され、この炭酸泉浴を自宅に設置して、練習後の疲労回復に効果があり快適に使用していることを述べられた時のものです。研究の成果が確実になってきたことが示され、大いなる自信につながり私共の活力となったことを覚えています。



(懇親会で挨拶される釜本日本サッカー協会顧問)

次の文章は、入來正躬先生が体調不良のため、第18回人工炭酸泉研究会に出席できないことになり、ご自宅から送られてきた挨拶文です。研究会の会場で本会会長の橋本眞明先生が読みあげられました。「炭酸泉の人体への利用は古い。我々は人工炭酸泉を日本で開拓したが、その臨床面での発展は不滅であり、同時に研究面での発展を望みたい。」、ことが切々と述べられております。

ひかりの里クリニック院長 入來正躬先生からのメッセージ

第18回人工炭酸泉研究会に出席できませんでしたので、ご出席の皆様に書面にて一言ご挨拶申し上げます。

人工炭酸泉が開発される以前は、炭酸泉の噴出するドイツ、フランスなどの限られた地域で、主に医療・療養を目的として炭酸泉浴が利用されてきました。古くは古代ローマ時代に既に療養泉として用いられたことが記録されています。このように炭酸泉は療養に利用されてきた歴史は長いのですが、研究の面から見ると今日に至るもその作用機序が十分解明されたとは言えず、更なる研究の進展が望まれます。

さて、人工的に高濃度炭酸泉が作られるようになったのは、日本で人工膜を使った方法が1997年に開発されたことによります。以来人工膜を利用した高濃度炭酸泉浴が各方面で成果を上げています。人工炭酸泉は場所を選ばず装備することができ、その利用方法は、全身浴、局所浴、例えば足浴、下肢浴、手浴など、入浴に際していろいろな工夫が可能となり、多方面で応用されています。褥瘡、人工透析などでの成果に始まり、運動生理学、リハビリテーション、温泉医学、さらに最近では美容、養毛など新しい分野での利用が進んでいます。今後はより幅広い分野での研究進展に期待しています。

研究会の皆様方におかれましては、個々の専門分野にとらわれることなく、他の分野の要素も取り入れ、また、国内に留まることなく研究に取り組んで頂くことを切に望みます。炭酸泉は不滅です。皆様方の益々の研究成果のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

平成25年12月6日 入來正躬

私が当時在籍していた山梨大学附属病院神経内科では助教授の新藤和雅先生を中心として人工炭酸泉を用いた臨床研究で、3名が学位を取得するという成果が得られました。人工炭酸泉が科学的に評価された結果で、嬉しく思っております。産業廃棄物を使用して人体の治療へとつなげる臨床研究は、社会への貢献は計り知れず、これぞ入來先生が目指していた「健康と自然」につながるものと確信しています。

今後は先生のメッセージにあったように、専門分野の枠を越えて、更なる研究を 発展させることが先生のご恩に報いることだと思います。



(入來正躬先生の山梨医科大学 副学長退任記念懇親会で、先生 の御指導に感謝して花束を贈呈 いたしました。)

(平成11年3月22日古名屋ホテル)

(平成27年12月4日 第20回人工炭酸泉浴研究会

記す)